

社会資本整備総合交付金事業

一般県道 椿井王寺線 椿井～三室工区

奈良県（道路建設課）

1. 再評価対象事業一覧表
2. 事業評価項目一覧表
3. 説明資料

事業評価項目一覧表

事業名	社会資本整備総合交付金事業	事業主体	奈良県
河川・道路名等	一般県道椿井王寺線	事業箇所	椿井～三室工区
評価項目及び評価内容			
事業の目的及び必要性 <input type="checkbox"/> 目的 ・ 走行性の向上、交通安全性の向上、救急救命活動の支援。 <input type="checkbox"/> 必要性 ・ 道路幅員が狭く、車両のすれ違い時に速度が低下し渋滞が発生。歩道がないことと、渋滞により生活道路に通過交通が流入することにより通学児童が危険な状況。 <div style="text-align: right;">(資料 p. 5～9)</div>			
事業策定の経緯 <input type="checkbox"/> 当時の状況 ・ 道路幅員が狭く、車両のすれ違い時に速度が低下し渋滞が発生。歩道がないことと、渋滞により生活道路に通過交通が流入することにより歩行者が危険。 <input type="checkbox"/> 着手までの経緯 上記の課題および地元要望による (資料 p. 8)			
事業の効果(費用対効果や施策的な効果など) <input type="checkbox"/> 計画時の効果 ・ B / C = 1. 4 <input type="checkbox"/> 現時点の効果 ・ B / C = 1. 3 <div style="text-align: right;">(資料 p. 10)</div>			
事業の進捗状況(着手時からの社会経済情勢の変化、事業の問題点、克服度など) <input type="checkbox"/> 進捗状況 ・ 事業進捗率：63% <input type="checkbox"/> 執行の遅延及び原因 ・ 執行の遅延は発生していない (資料 p. 12)			
事業進捗の見込み <input type="checkbox"/> 進捗の対策 ・ 用地買収率 60% (平成29年10月末時点)) <input type="checkbox"/> 進捗の見込み ・ 引き続き、残りの用地買収を推進する。 (資料 p. 12)			
事業の対策 平成30年代半ばの事業完了を目標に事業推進に努める。 (資料 p. 17)			
その他 <input type="checkbox"/> 関係機関等の意向 将来都市構造における主要骨格軸であり、日常的な交通渋滞の緩和と歩行者の安全性確保のため、改良事業を促進する事業。 <input type="checkbox"/> 関連事業の有無 <div style="text-align: right;">(資料 p. 11)</div>			

平成29年度 第2回 奈良県公共事業評価監視委員会

つばいおうじ
一般県道椿井王寺線
つばい みむろ
椿井～三室工区

平成29年12月

奈良県県土マネジメント部道路建設課

目 次

1. 路線の状況
2. 事業の概要
3. 事業の必要性等に関する視点
 - 1) 事業を巡る社会情勢等の変化
 - 2) 事業の整備効果
 - 3) 事業の投資効果
 - 4) 地域における計画等
4. 事業の進捗の見込みの視点
5. 前回再評価時との比較
6. コスト縮減や代替案立案等の可能性及び事業完了後の良好な公共サービス提供の視点
7. 対応方針(案)

1. 路線の状況((一) 樅井王寺線)



(一) 樅井王寺線 樅井～三室工区

- (一) 樅井王寺線は、生駒郡平群町樅井を起点とし、北葛城郡王寺町元町に至る延長約2.7kmの地域の安全・安心を支える道路。
- 周辺の住宅地から国道168号や国道25号などの幹線道路へのアクセス道路であり、地域の日常生活を支えるうえで欠くことのできない道路。

1. 路線の状況(位置付け)

- (一) 樺井王寺線樺井～三室工区は、平群町および三郷町を南北に縦断する延長約0.95kmの道路整備事業である。
- 本道路は、奈良県道路整備基本計画(平成26年7月)において、安全・安心を支える目的志向の整備路線に位置づけられている。

◆奈良県道路整備基本計画における(一)樺井王寺線の位置づけ

整備すべき道路のあり方

1. 骨格幹線道路ネットワークの形成

2. 目的志向の道路整備の推進

(1) 企業立地を支援する道路整備の推進

(2) 観光振興に資する道路整備の推進

(3) 生活利便性の向上に資する道路整備の推進

(4) 安全・安心を支える道路整備の推進

① 災害に強い道路の整備

② 老朽化に対応した適切な維持管理の実施

③ 暮らしを支える交通安全対策

○PDCAサイクルによる効率的な安全対策

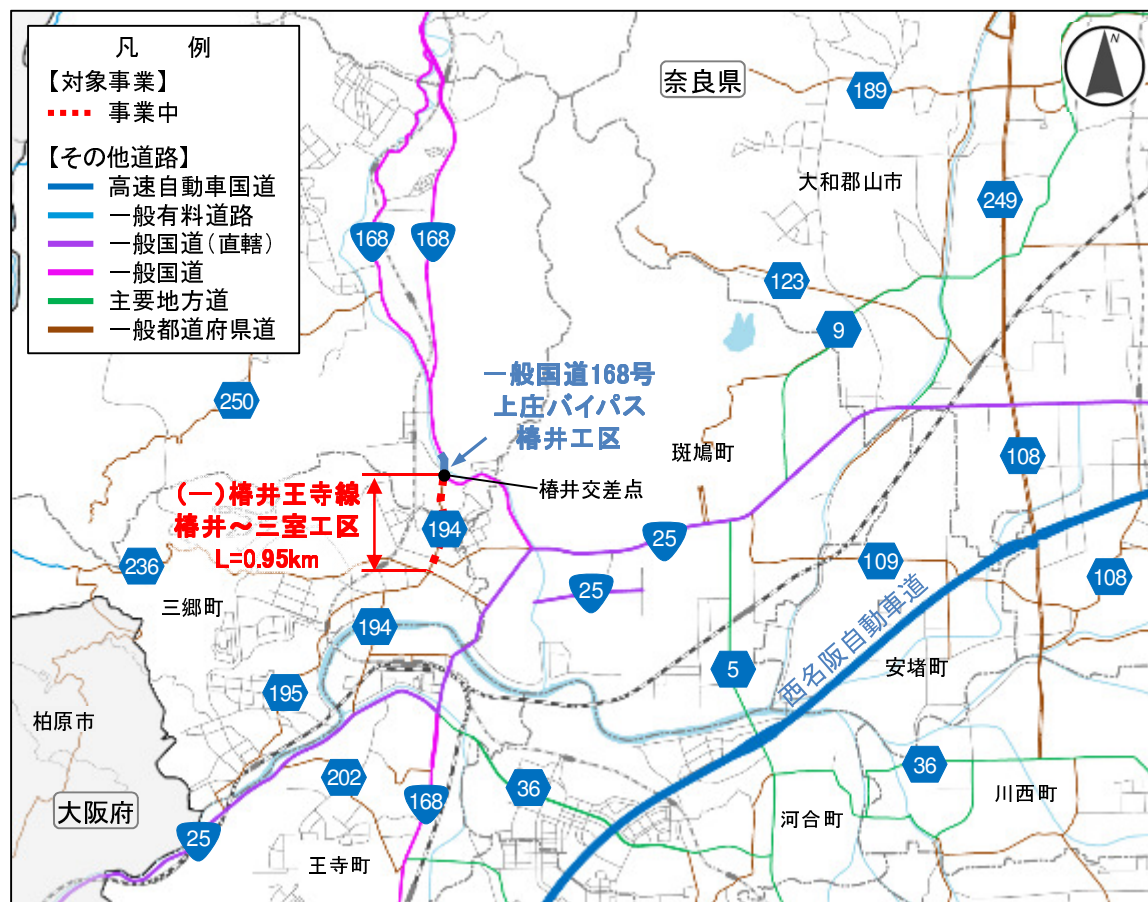
○通学路の安全確保

○総合的な歩道整備の推進

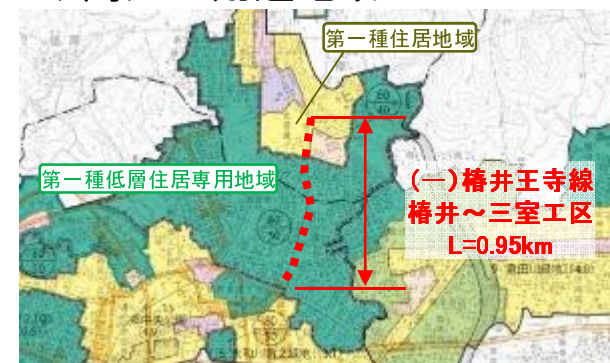
1. 路線の状況(周辺の状況)

■ (一) 椿井王寺線椿井～三室工区は、南北に縦断する生活道路であり、沿道は昭和40年代より開発された住宅が建ち並んでいる状況である。

◆事業区間位置図



◆周辺の用途地域



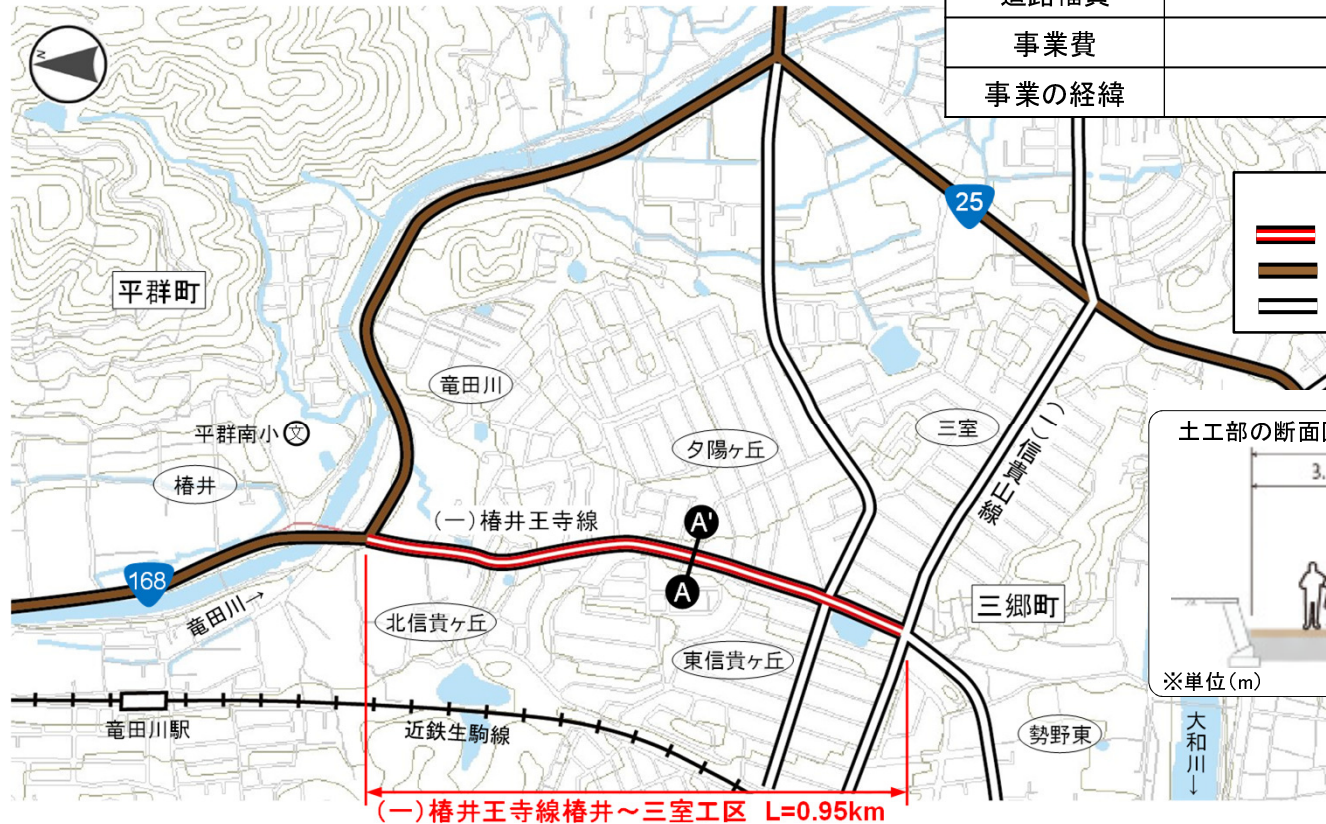
凡	例
都市計画区域	自治体
都市計画道路	第一種
市街化区域	
第一種低層住居専用地域	第一種低層住居専用
第二種低層住居専用地域	第二種低層住居専用
第一種中高層住居専用地域	第一種中高層住居専用
第二種中高層住居専用地域	第二種中高層住居専用
第一種住居地域	第一種住居
第二種住居地域	第二種住居
準住居地域	準住居
近隣商業地域	近隣商業
商業地域	商業
準工業地域	準工業
工業地域	工業
工業専用地域	工業専用
第一種・第二種低層住居専用地域河川外側法距離1.5M	第一種・第二種低層住居専用地域河川外側法距離1.5M
第一種・第二種低層住居専用地域河川外側法距離1.0M	第一種・第二種低層住居専用地域河川外側法距離1.0M
地区計画区域	地区計画
都市計画公園	都市計画公園

2. 事業の概要

◆事業の目的

- ・走行性の向上
- ・交通安全性の向上
- ・救急救命活動の支援

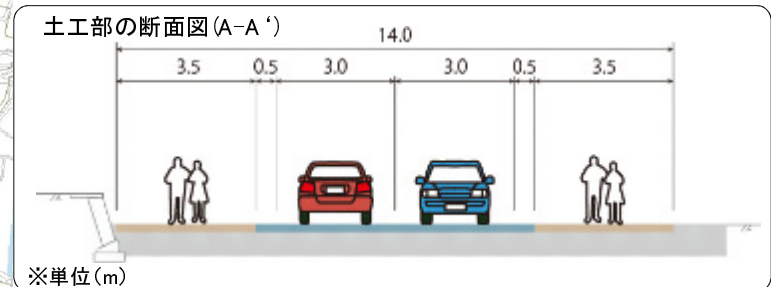
◆事業区間の道路構造



◆事業概要

路線名	一般県道椿井王寺線
事業区間	奈良県生駒郡平群町椿井～奈良県生駒郡三郷町三室
事業延長	約0.95km
構造規格	第4種第2級
設計速度	40km/h
計画交通量	12,600台/日
車線数	2車線
道路幅員	14.0m
事業費	全体事業費 30.2億円
事業の経緯	平成18年度 事業化

凡例	
	対象事業(現道拡幅)
	一般国道
	その他の道路



2. 事業の概要(計画図)

■ (一) 椿井王寺線の椿井～三室工区は、平群町椿井から三郷町三室に至る延長約0.95kmの道路。

◆事業区間計画図

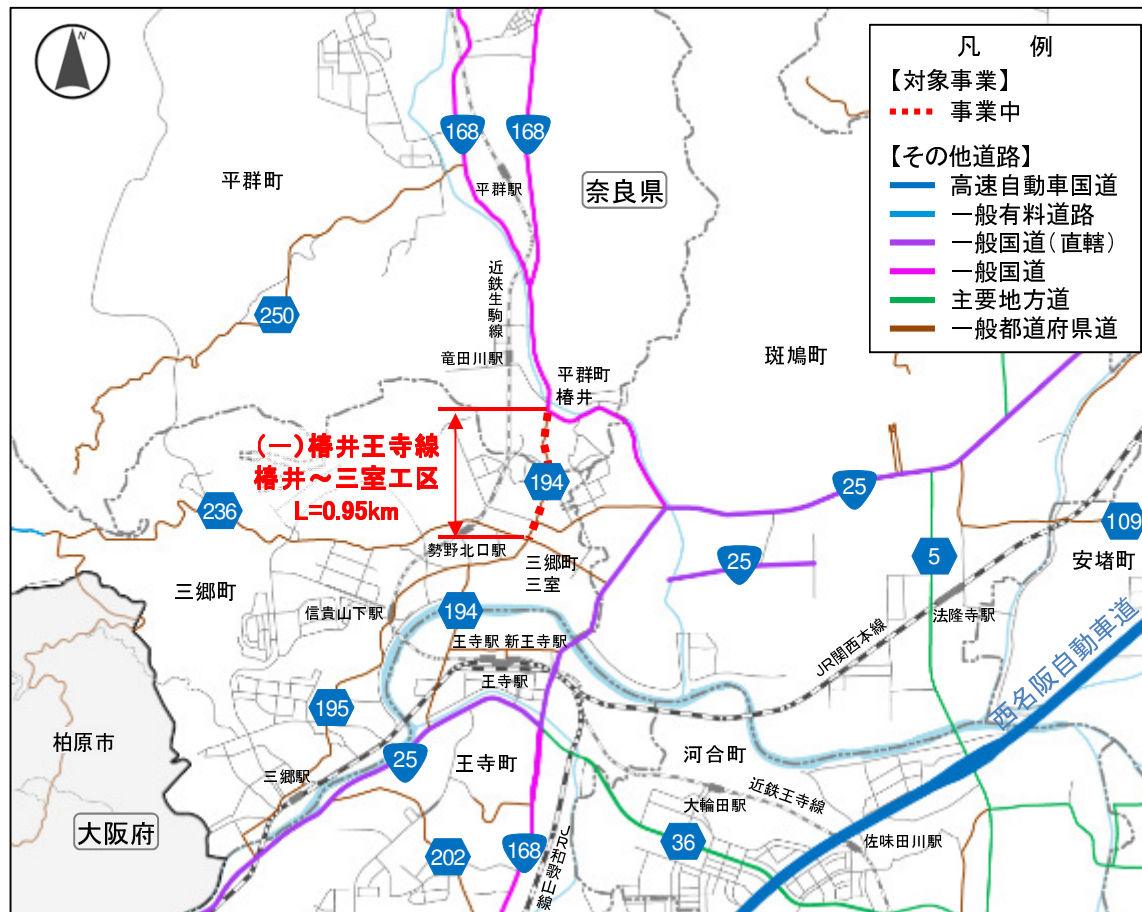


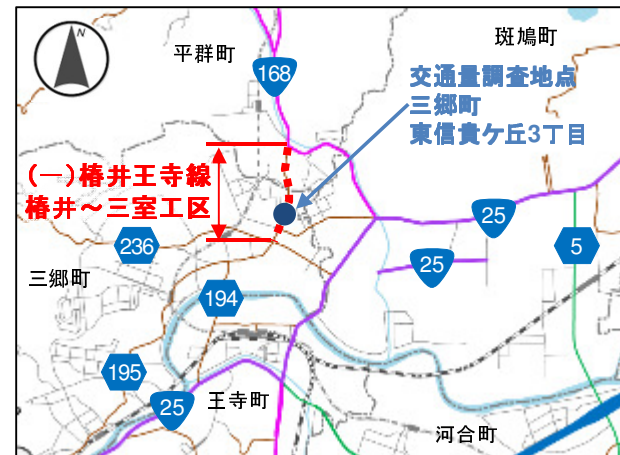
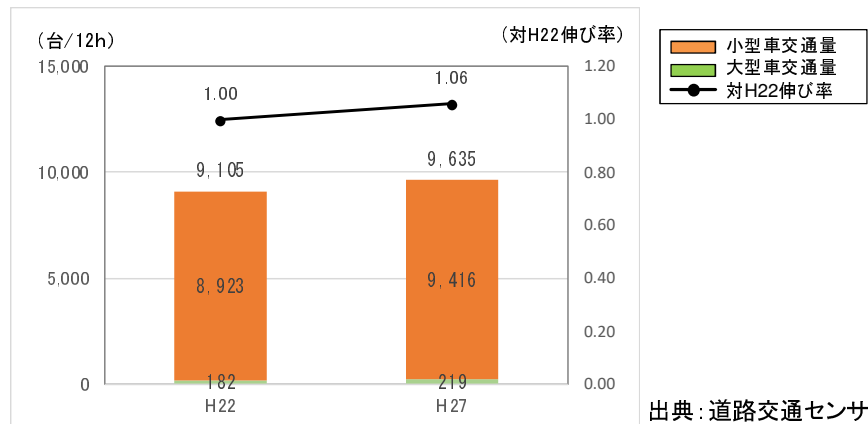
写真1・2 (一) 椿井王寺線の現道の状況

3. 事業の必要性等に関する視点

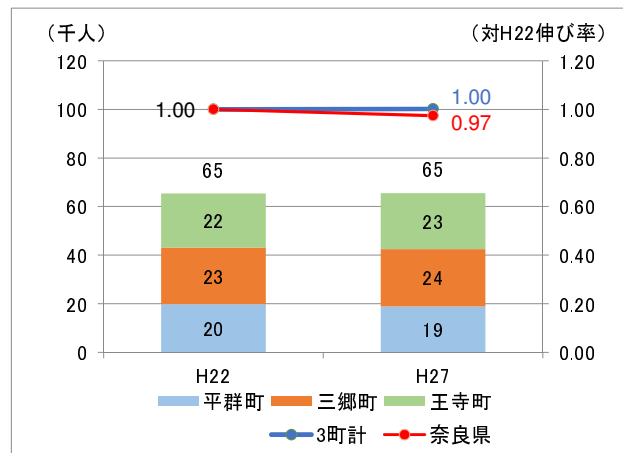
1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

- (一) 椿井王寺線椿井～三室工区の交通量は、増加傾向(対H22伸び率1.06)。
- 平群町・三郷町・王寺町の人口は、横ばいで推移(対H22伸び率1.00)。
- 平群町・三郷町・王寺町の自動車保有台数は、横ばいで推移(対H22伸び率1.01)。

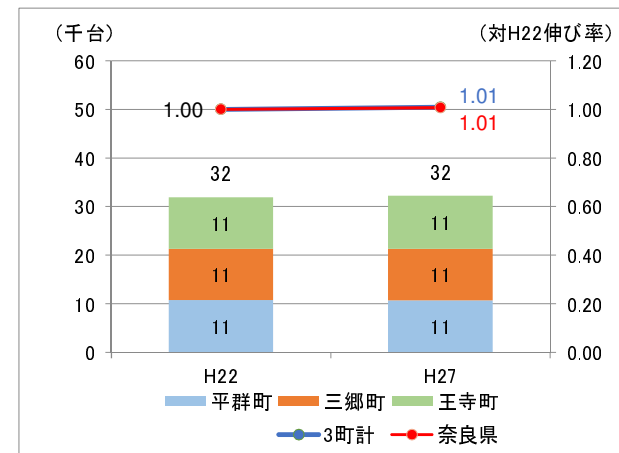
◆(一) 椿井王寺線の交通量



◆平群町・三郷町・王寺町の人口



◆平群町・三郷町・王寺町の自動車保有台数



※二輪車を含まない

出典: 奈良県統計年鑑

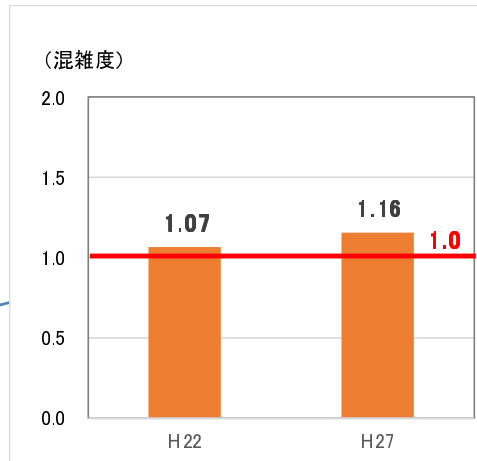
3. 事業の必要性等に関する視点

2) 事業の整備効果【走行性の向上】

- (一) 樺井王寺線 樺井～三室工区は道路の幅員が狭く、車両のすれ違い時に速度低下が発生し、スムーズな走行に支障が出ている。混雑度は1.16と高い状況となっている。
- 当該道路の整備により、交通の円滑化に寄与し、走行性の向上が期待される。

◆ (一) 樺井王寺線の交通状況

【混雑度(観測地点:三郷町東信貴ヶ丘3丁目)】



※混雑度の解釈
1.0未満: 昼間12時間を通して、道路が混雑することなく、円滑に走行できる。
1.0～1.25: 昼間12時間のうち道路が混雑する可能性のある時間帯が1～2時間(ピーク時間)ある。
1.25～1.75: ピーク時間を中心として混雑する時間帯が加速的に増加する可能性の高い状態。
1.75以上: 慢性的混雑状態。
出典: 道路の交通容量((社)日本道路協会)

出典: 道路交通センサス

● 主要渋滞箇所(樺井交差点)



写真1 狭幅員区間でのすれ違いによる速度低下



写真2 北行きの混雑状況(樺井交差点付近)



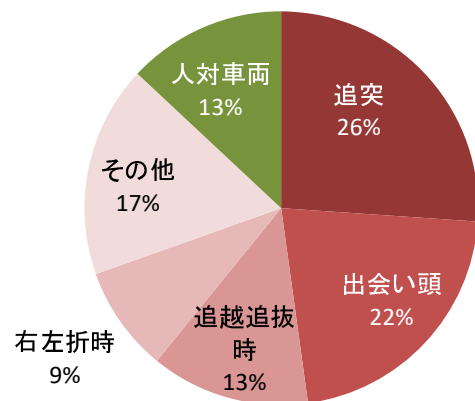
写真3 南行きの混雑状況(勢野北交差点付近)

3. 事業の必要性等に関する視点

2) 事業の整備効果【交通安全性の向上】

- (一) 椿井王寺線椿井～三室工区は、混雑時の追突事故のほか、道路の幅員が狭く見通しが悪いことが原因と考えられる出会い頭や追越・追抜時の事故、歩道が整備されていないことによる人対車両の事故が多数発生している。死傷事故件数は23件(H22～H27)。
- 住宅地内の通学路に、混雑を避けるため抜け道利用する車両が多く通行し、危険な状況である。
- 本道路の整備により、円滑な交通が確保されることで、通行する車両および通学児童の交通安全性の向上が期待される。

◆(一) 椿井王寺線の事故の割合



道路混雑時の追突事故のほか、道路幅員が狭く見通しが悪いことが原因と考えられる出会い頭や追越・追抜時の事故、歩道が設置されていないことによる人対車両の事故が発生

※平成22～27年の死傷事故件数の内訳 (合計23件)
 ※椿井交差点～勢野交差点間



写真1 幅員が狭く自転車を追越にくい状況 (追越追抜時の事故の要因)



写真2 住宅地内の通学路への車両流入

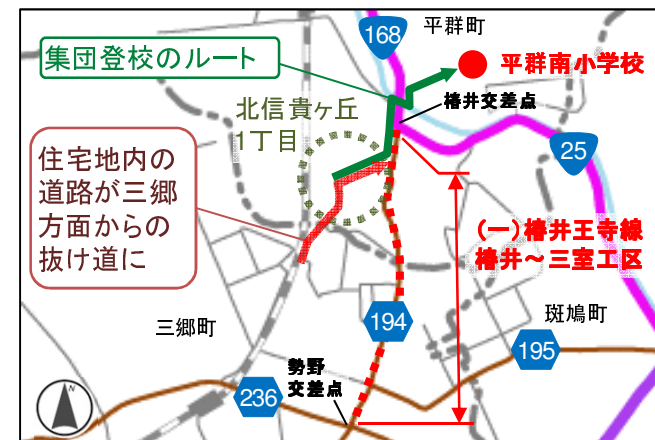
◆平群南小学校の声



通学は全て徒歩で集団登校を実施しています。北信貴ヶ丘1丁目の集合場所付近の道路は椿井王寺線の渋滞を避ける車の抜け道になっており、一旦停止せずに走行するような車両がいるため危険を感じています。

椿井王寺線は、通学時だけでなく放課後の習い事や遊びで移動する際も児童が通ったり横断したりしています。歩行者にとって危険な道路なので、安全な道路の整備を望みます。

出典：平群南小学校ヒアリング結果(H29.10)



3. 事業の必要性等に関する視点

3) 事業の投資効果

便益(B)	走行時間短縮便益	走行経費減少便益	交通事故減少便益	総便益※1	費用便益比(B/C)
	39.3億円	1.6億円	0.0億円	40.9億円	
費用(C)	事業費		維持管理費	総費用※1	
	30.4億円		0.1億円	30.5億円	

■算出条件等

基準年	:平成29年度
検討期間	:50年間
現在価値算出のための社会的割引率	:4%
交通量の推計時点	:平成42年度
推計に用いた資料	:平成17年度道路交通センサス
適用した費用便益分析	:平成20年11月版マニュアル
事業費	:30.4億円(現在価値)
維持管理費	:861千円/km
作成主体	:奈良県

◆残事業

便益(B)	走行時間短縮便益	走行経費減少便益	交通事故減少便益	総便益※1	費用便益比(B/C)
	39.3億円	1.6億円	0.0億円	40.9億円	
費用(C)	事業費		維持管理費	総費用※1	
	9.2億円		0.1億円	9.3億円	

※1 便益・費用については、現在価値化した値である。

※2 残事業については、基準年の翌年度以降の残事業費及び翌年度以降の供用により発生する便益で算出している。

3. 事業の必要性等に関する視点

4) 地域における計画等

事業の位置づけ

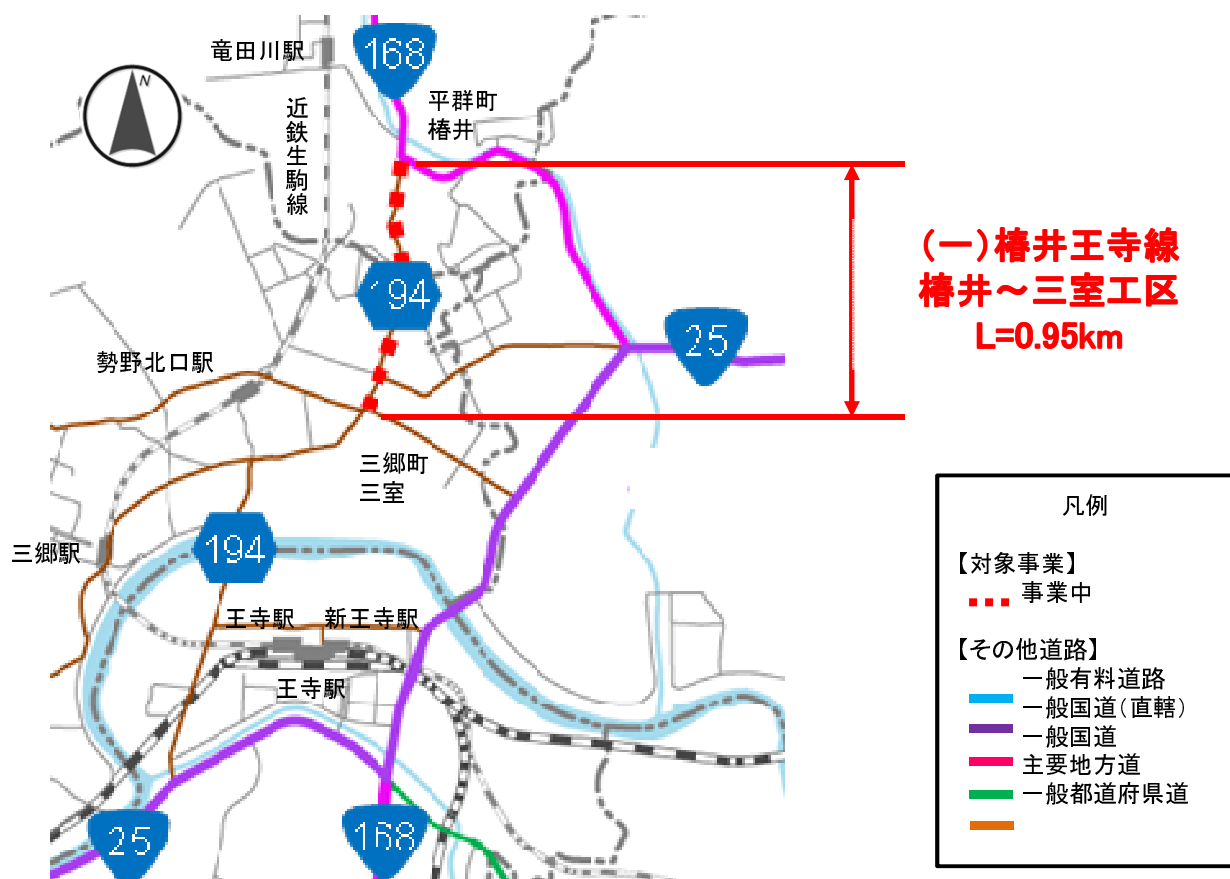
- 奈良県道路整備基本計画(平成26年7月)
安全・安心を支える目的志向の整備路線として位置付け。
- 平群町都市計画マスタープラン(平成20年)
日常的な交通渋滞の緩和と歩行者の安全性確保のため、(一)椿井王寺線の改良事業を促進。
将来都市構造における主要骨格軸。

要望経緯

- 奈良県(郡山土木事務所)への要望事項 郡山土木協議会会長(平成29年6月)
椿井王寺線(椿井～三室工区)の早期完工を要望。

4. 事業の進捗の見込みの視点

- 用地買収が完了した箇所から順次工事を進めており、今年度も椿井交差点の南側付近の140m区間で歩道整備や車道の拡幅工事を実施する予定である。
- 平成29年10月時点の進捗は、事業進捗率63%、用地買収率60%。
- 引き続き、残る用地買収や拡幅工事を進め、早期の供用を目指す。



5. 前回再評価時との比較

平群町・三郷町・王寺町

- ・世帯数 24,786世帯(H22)→25,660世帯(H27) 874世帯(3.5%)増
- ・人口 65,349人(H22)→65,479人(H27) 130人(0.2%)増
- ・自動車保有台数 31,941台(H22)→32,217台(H27) 276台(0.9%)増

(一) 椿井王寺線

- ・交通量 9,105台/12h(H22)→9,635台/12h(H27) 530台/12h(5.8%)増

事業計画等

- ・事業進捗率 19%(H24)→63%(H29)
- ・用地進捗率 14%(H24)→60%(H29)
- ・事業費 約26.2億円(H24)→約30.2億円(H29)
約4.0億円増(家屋等の補償額精査による増額。)
- ・完了年次 平成31年度→平成34年度

費用便益比

- ・B/C 事業全体:1.4(H24)→1.3(H29)
残事業 :2.6(H24)→4.4(H29)

5. コスト縮減や代替案立案等の可能性及び事業完了後の良好な公共サービス提供の視点

◆コスト縮減に配慮した施工

既設側溝の有効利用(嵩上げ等に対応)により、約7百万円のコストを縮減が期待される。
より一層コスト縮減に努めながら、引き続き事業を推進する。

◆代替案立案等の可能性

現在の計画で事業の進捗に問題がないため、代替案の検討は行わない。

◆事業完了後の良好な公共サービス提供

供用開始時に、道路を利用される方々が安全で快適に利用していただけるよう、引き続き関係機関協議等を着実に実施する。

6. 対応方針(案)

1. 事業の必要性等に関する視点

- (一) 樺井王寺線の走行性向上が図られる。
- (一) 樺井王寺線の交通安全性の向上が図られる。
- 救急救命活動の迅速化が図られる。
- 費用便益比(B/C)は事業全体で1.3、残事業で4.4。

2. 事業進捗の見込みの視点

- 現在、用地買収及び擁壁工事を実施中。事業進捗について大きな問題はない。
- 引き続き事業を推進し、平成30年代半ばの事業完了を目指す。

(一) 樺井王寺線は、事業の必要性等に関する視点、事業の進捗の見込みの視点から継続が妥当と判断できる。
引き続き事業を推進し、早期の事業完了を目指すことが適切である。

事業継続